

聖マリアンナ医科大学
令和6年度入学者選抜に関する検証報告書
要約版

入学者選抜検証委員会

委員長 遊道 和雄



(聖マリアンナ医科大学 大学院 医学研究科長)

委員 井上 永介



(昭和大学 統括研究推進センター 教授)

臨床研究支援部門データ管理室 室長)

委員 池森 敦子



(聖マリアンナ医科大学 解剖学 主任教授)

1. 本入学者選抜検証委員会について

本入学者選抜検証委員会（以下、本委員会）は、聖マリアンナ医科大学自己点検・評価委員会により、同大学一般入学者選抜の公平性・公正性を独立して検証する目的で、令和3年度に設置された。委員長は令和3年度～令和4年度まで元中央大学入試管理委員長の古田裕清（中央大学教授）が務めていた。同委員会が、令和4年度入学者選抜の検証をもって本学が自律的に公正な入学者選抜を実施する体制が構築されたものと判断したことから、令和5年度からは学内者（同委員会委員であった遊道和雄）を委員長とする検証委員会を継続することとした。なお、外部委員としては、引き続き、井上永介に委員として協力いただくこととなった。本委員会は昨年度に引き続き同大学令和6年度一般入学者選抜について検証を行ったので、以下にその結果を報告する。

2. 令和6年度一般入学者選抜にかかわる検証行程

第一回入学者選抜検証委員会開催 令和6年5月31日
入学者選抜検証委員による実地調査 令和6年7月1日・7月2日
第二回入学者選抜検証委員会開催 令和6年7月9日

3. 令和6年度一般入学者選抜の概要

令和6年度の一般入学者選抜は、1次試験〔英語（100点）、数学（100点）、および、理科（物理・化学・生物）から2科目選択（200点）〕と2次試験〔小論文（50点）、面接（50点）、および適性検査〕による二段階選抜で実施された。1次試験の得点上位者に2次試験を受験させ、1次試験（400点）・2次試験（100点）の計500点満点における合計得点の高い順に合格者を決定した。適性検査結果および出願書類（調査書・志願票・実績報告書）の評価は面接評価に加味されるが、それ自体には配点されない。また、適性検査結果および出願書類を含み面接において、医師としての適性に問題があると判断された者は、上記合計得点にかかわらず不合格となることがあり、これらは入学者選抜要項で事前に公表されている。以上の流れは前年度一般入学者選抜と同じ流れである。

令和6年度一般入学者選抜は、前期日程と後期日程に分けて実施された。前期日程（募集人員約75名）は、1次試験が令和6年2月8日に、2次試験は令和6年2月17乃至18日に実施され、また、後期日程（募集人員約10）は、1次試験が令和6年3月5日に、2次試験は令和6年3月15日に実施された。

入学者選抜に関する業務は、入試委員会が統括し、入試委員および教学部入試課等の事務職員が行う体制となっている。令和6年度の入試委員会での合否を判定する会議では、上述のとおり、1次試験および2次試験の合計得点の高い受験者から順に正規合格者・補欠者の案を決定し、氏名および性別・年齢などの属性を除いた各科目の得点および合計得点を主任教授会に提示し、審議した上で承認決定された。補欠者は合計得点の高い順に繰り上げ順位をつけて公表し、その順位に従い繰り上げ合格を行っている。

4. 令和6年度一般入学者選抜結果

1) 前期試験において、女性受験者の正規合格率は3.4%、男性受験者の正規合格率は1.8%であり、女性受験者の合格率が男性受験者の合格率の約1.7倍であった。

1次試験受験者に対する1次試験合格率は、女性受験者が15.6%、男性受験者が18.0%であり、男性の方が高かった。2次試験受験者における、1次試験（学科試験）の合計の平均点は、女性受験者259.3点、男性受験者257.3点で女性受験者が2.0点高かった。2次試験の小論文の平均点は女性受験者32.8点、男性受験者31.1点で、女性受験者が1.7点高く、同じく面接試験の平均点は女性受験者38.1点、男性受験者34.4点で、女性受験者が3.7点高かった。このことから女性の正規合格率が高い要因は、主として面接試験、従として小論文および学科試験の成績の差であると考えられた。

2) 同じく、前期試験において、現役生、一浪生、および、その他の受験者の正規合格率は、現役生2.1%、一浪生2.6%、その他の受験者2.9%で、僅差であった。また、1次試験受験者に対する1次試験合格率は、現役生11.3%、一浪生20.0%、その他の受験者18.6%であった。

2次試験受験者における1次試験（学科試験）の合計の平均点は、現役生258.8点、一浪生257.3点、および、その他の受験者258.4点でと僅差であった。2次試験の小論文の平均点は現役生30.8点、一浪生32.4点、および、その他の受験者31.8点と僅差であり、面接試験の平均点は現役生39.4点、一浪生37.2点、および、その他の受験者33.9点となっており、現役生に比べ、一浪生で2.2点、その他の受験者で5.5点低かった。

3) 後期試験においては、女性受験者の正規合格率は0.8%、男性受験者の正規合格率は0.6%であった。また、現役生、一浪生、および、その他の受験者の正規合格率は、それぞれ0.8%、1.0%、および0.4%であった。なお、後期日程では正規合格者数が9人と少数であることから、詳細な解析は行わなかった。

5. 令和6年度一般入学者選抜の検証方針

上記4. に令和6年度一般入学者選抜結果の特徴を記載したが、公平性・公正性の観点から、この特徴に関与する場合を含め、なんらかの点数加工や成績によらない選択が行われていないかどうかという点に注力し、昨年度に引き続き検証を行った。

具体的には、

- 1) 1次試験および2次試験の各科目において、各受験者の答案（面接においては面接評価表）上の得点と、合格不合格を判定する資料（以下、合否判定資料）の得点とは正確に一致しているか、
- 2) 合格者および補欠者は、医師としての適性に問題があると判断された受験者を除き、合否判定資料における1次試験および2次試験の合計得点の順により決定されているか、
- 3) 補欠者の繰り上げ合格は、合否判定資料における合計得点の順に行われているか、の3点について検証した。

6. 令和6年度一般入学者選抜の検証結果

1) 受験者の答案（採点）から合否判定資料の作成までの過程について

受験者の答案と合否判定資料の整合性検証のためサンプリング調査を行った。

サンプリング数については、人的な転記ミスが確率が0.001であることを基に（林喜男、人間信頼性工学、1984）、合計得点算出時の総転記回数80回のいずれにおいても間違いがないと判断できる人数として、昨年度同様50人と設定した。

具体的には、1次試験（英語、数学、理科）について、前期日程受験者から35名、後期日程受験者から15名の計50人を選び、当該受験者の各科目の答案（現物）に記された点数と合否判定資料に記載された点数とを突合した。なお、対象の選択は、前期と後期のそれぞれで男女比と現浪比が1:1となるように行った。

その結果、答案に記された点数が合否判定資料に正確に転記されていることが確認された。

2次試験の小論文においては、各受験者の答案を3名の採点委員が相互独立に採点する方式が採られている。上記50人の中から1次試験に合格し2次試験を受けた43人（前期日程30人、後期日程13人）の試験結果を検証した。各採点委員がそれぞれ手書きした採点結果の一覧表（現物）の得点と合否判定資料に記載された得点とを突合した。その結果、3人の採点委員が手書きした得点から算出された平均点が正確に合否判定資料に転記されていることが確認された。

2次試験の面接試験においては、3人の面接委員が一組となり、出願書類や適性検査結果を参考とし、各受験者に対し約15分間の質疑応答を行い、評価を行っている。各委員が相互独立にA～Eの5段階で総合評価し、その後、事務職員がA～Eの評価に従い点数化を行っている。小論文の検証で用いた43人について、各面接委員の面接評価票（現物）を吟味した結果、各面接委員が記入したA～Eの評価が正しく点数に換算され、その平均点が合否判定資料に正確に記載されていることが確認された。また、1次試験および2次試験の合計得点以外の点数の存在は確認されなかった。

2) 合否判定資料を用いた正規合格者・補欠者・繰り上げ合格者の決定について

前期日程においては、入試委員長および副委員長立ち合いの下で事務職員の作成した合否判定資料と正規合格者（75名）・補欠者（249名）・繰り上げ合格者（68名）を突合したところ、1次試験および2次試験の合計得点の順に、正規合格者、補欠者が決定され、補欠者においては、当該合計得点順に繰り上げ合格がなされていることが確認された。後期日程についても、正規合格者（9名）・補欠者（32名）・繰り上げ合格者（3名）について、齟齬がないことが確認された。

なお、令和6年度入学者選抜において医師としての適性に問題があるとの判断により不合格となった者は、前期の補欠者の中に2名いたが、後期にはいなかった。

3) 本委員会が調査した限り、受験者の答案評価時から正規合格者・補欠者決定に至る過程で加点・減点等の点数加工や成績順によらない選択がなされた形跡は一切確認されなかった。このことから、上記4.で示された、女性受験者の正規合格率が男性受験者のそれよりも高いことは、点数加工など不適切な操作によるものではないと判断された。

女性受験者の正規合格率が男性受験者のそれよりも高いことについては、これまでの検証結果

と相違なかった。

- 4) 令和5年度より、入試委員会内規において、「合否判定会議で用いる合否判定資料は、当該入学者選抜において実施された試験科目の成績のみに基づき公正に作成されていることが、監事もしくは顧問弁護士またはそれに準ずる立場の者によって予め確認されたものでなければならない」と規定されている。令和6年度入学者選抜についても、本学監事が合否判定会議の前に合否判定資料が公正に作成されていることを確認し、入試委員長に書面をもって通知している。

7. 結論

本委員会が調査した限り、令和6年度一般入学者選抜においても、受験者の答案の得点（評価）は合否判定資料に正確に反映され、正規合格者、補欠者、および繰り上げ合格者は合否判定資料の総合得点の順に決定されていた。すなわち、選抜過程で加点・減点等の点数加工がなされた形跡や、得点順によらない合格者等の選択は一切確認されなかった。

以 上